



第26号

開鐘

K E - J O U

沖縄県立芸術大学広報誌



音楽表現専攻 声楽コース 教授

五郎部 俊朗

令和5年度をもってご退任された音楽表現専攻・声楽コース
五郎部俊朗教授、芸術学専攻 金惠信教授からのメッセージを
ご紹介します。

辰年の平成24年に沖縄県立芸術大学に着任し、あれから12年の時が流れ、また同じ辰年に沖縄を離れることになります。沖縄に来る前は、藤原歌劇団のテノール歌手として、オペラ公演やコンサートなど、全国各地にて演奏の機会を得て、充実したキャリアを積ませて頂きました。「演奏だけでは飯を食えない」というクラシック音楽界にて、歌手稼業で20年以上生計を立ててこられたのは、本当に幸せなことと感じています。そんな私でしたが、自分の歌手人生に一区切りを付け、次のステップに踏み出すことを決意し、沖縄の地にやってきました。実は、私の伯父（母の兄）が沖縄で戦死しており、その最後の場所が弁ヶ岳公園でした。調べてみると、当蔵キャンパスからはすぐ近くの場所で、まるでその伯父に導かれて首里の地に来たようにも思え、県立芸大に勤めさせて頂いたのも、何かご縁があつてのことかと感じています。しかし、私にとって大学での教員生活は慣れないことばかりで、環境の変化やストレスから、最初の頃は色々と身体を壊し、「大学辞め

て歌手に戻ろう」と思ったこともありましたが、こうしてなんとか定年まで勤め上げることが出来ました。在職中は声楽教師として、歌を教えることが仕事ではありましたが、奏楽堂演奏会でのバッハ「ヨハネ受難曲」や、洋楽定期公演でオルフ「カルミナ・ブランナ」、沖縄平和祈念堂でのモーツアルト「レクイエム」など、ソリストとして学生達と一緒にステージに立つ機会にも恵まれました。また、退任の一ヶ月ほど前には、門下の在学生・卒業生らによる、退任記念の門下コンサートを開いて頂きましたが、この公演は私の教育活動における12年間の集大成となり、一番の良い思い出となりました。素晴らしい弟子たちに恵まれ、彼らとの出会いは私の貴重な財産です。この12年間、あまり大学には貢献出来たとは言えませんが、自分なりに精一杯やってきたと思います。大学関係者の皆さんには大変お世話になりましたこと、心から感謝申し上げます。沖縄を離れても、今後の県芸のさらなる発展を願っております。

五郎部俊朗（音楽表現専攻 声楽コース 教授）

芸術学専攻 教授

金 惠信

*ソウル

私が生まれた韓国のソウルは朝鮮王朝（1392～1910）の都漢陽（ハニヤン）が韓国の首都になった都市です。生まれた家は朝鮮王朝の正宮だった景福宮（キョンボックン）の隣にありました。やはり宮殿だった徳壽宮の近くにある梨花（イファ）女子高等学校を卒業し、大学は高麗時代から続く王朝最高教育機関成均館（ソンキュンクァン）を母体とする成均館大学校で服飾史と仏語仏文学専攻し、更に梨花女子大学大学院美術学科現代美術史専攻で修士号を取得しました。海外に留学する夢はずっと持っていてフランスを目指していましたが、もっと近い国への留学がいいのではという父の希望もあり、また縁もあって日本に留学することになりました。

*東京

留学生活はお茶の水女子大学哲学科研究生から始まりました。東アジアの近現代美術を研究テーマに決め、更に早稲田大学美術史専攻研究生を経て、成城大学芸術専攻博士後期課程に入学しました。そして研究の方向性を決定づける出会いがありました。ハーバード大学ノーマンブライソン教授の「ジェンダー、国家、セクシュアリティー大学院生とのセミナー」（1993）と第5回日本美術に関する国際大学院生会議（Jaws、1996）に参加したことです。ここで、オリエンタリズムとコロニアリズム、そしてジェンダーの視座で美術作品を分析する方法論を学びました。ブライソン教授のセミナーで出会った学習院大学の千野香織先生の指導で博士論文「韓國近代美術研究 植



民地期「朝鮮美術展覧会」にみる異文化支配と文化表象」を書き上げ、博士学位取得後は複数の大学で非常勤講師をしながら東京で研究を続けました。

*那霸

2015年4月、芸術学専攻の東洋美術史とアジア近現代美術分野に着任したことは人生で一番嬉しい出来事でした。中庭からライトアップされた首里城を見上げた時は、ソウルの景福宮の夜間ライトアップの姿が重なり、故郷に戻ったようで胸がいっぱいになりました。2016年には台湾国立政治大学の国際シンポジウム「1945年以前の台湾と東アジアの芸術と文学の交流」で、基調講演（「官展のおんなたちが語るもうひとつの東アジアの近代」）をしました。科研「アジアの女性美術家のライフコースに見る芸術実践について」では、染織家の上原美智子さんと日本画家の喜屋武千恵さんのインタビューを行いその記録をウェブで公開しました。授業と論文指導、芸大祭を始めとする様々なイベントでの学生たちとの付き合いの体験は一生の宝で、コロナ禍の三年間専攻主任を務めたことは大学の仕組みを知る経験でした。話しあはせませんが、着任の年の秋にこの世を去った大学教員だった父と年に何度も沖縄に来て一緒に過ごし、沖縄のことをこよなく好きになって昨年あの世に逝った母、私の人生の三番目の都、那霸と首里の芸大に心からの感謝を送ります。

金惠信（芸術学専攻 教授）

Indonesian Arts Festival (FKI+) XII 2023

2023年 第12回インドネシア芸術祭

会期：2023年10月24日～27日
メイン会場：インドネシア国立芸術大学デンパサール校



Festival Kesenian Indonesia (FKI)は、インドネシア全土の国公立の芸術大学が参加する隔年イベント（ビエンナーレ）として、長い歴史をもち、2023年・第12回インドネシア芸術祭（FKI+）/ Indonesian Arts Festival (FKI+) XII 2023）として、ISI Denpasar（インドネシア国立芸術大学デンパサール校）がホストとして、12回目を開催しました。初の試みとして、FKI+（プラス）として、沖縄県立芸術大学を含む海外の芸術大学も参加し、盛大に行われました。

テーマは、"Samudra-Rakta-Samasta" 海洋の偉大なる力を今のクリエイティブ・アートに。

各々の大学の講師、学生、関係者によるクリエイティブな作品を展示のみならず、合同作品やコラボレーションにより、更なる創造性を生み出し

ました。絵画、彫刻、写真、アート、グラフィック、アニメーション、映画、ドキュメンタリー、工芸、陶芸、インスタレーション、ビデオアートなど幅広いメディアによる作品を展示、発表。また、芸術分野の研究の場として国際セミナーを開催し、日頃の研究の成果を発表しました。

沖縄県立芸術大学からはデザイン専攻のアニメーション作品、小西潤子先生によるオンライン基調講演、琉球芸能公演（映像）が参加しました。



彫刻専攻「見る彫刻、触れる彫刻、感じる彫刻」



パレットくもじ × 沖縄県立芸術大学

With Art

アートとともににある未来へ展 Vol.3

写真：高野大



彫刻専攻「見る彫刻、触れる彫刻、感じる彫刻」

会期：2023年12月1日（金）～25日（月）

会場：パレットくもじ各所・沖縄銀行本店

主催：久茂地都市開発株式会社、沖縄県立芸術大学

協力：デパートリウボウ、沖縄銀行

今年で3回目となる本展覧会は、美術工芸学部の彫刻専攻と工芸専攻、音楽学部の音楽表現専攻と琉球芸能専攻が参加しました。今年は音楽学部のコンサートの数も増え、クラシック音楽（ピアノ・声楽・管打楽器）から琉球古典芸能まで幅広く演奏され、舞台とは異なる空間で音楽を間近に体感していただきました。展示では、パレットくもじ各所に加えて、沖縄銀行本店でも開催されました。彫刻専攻では、テラコッタ、木彫、ブロンズ、鋳鉄、ミクストメディアなどの作品が出品され、一部の作品は実際に手で触れて感じてもらうことで、より作品を楽しんでいただけるように展示されました。工芸専攻では、染織、陶芸、漆といった多岐にわたる工芸の伝統的な技術と新たな感性が生み出す造形美を体感していただきました。



工芸専攻「コウゲイの俯瞰図」

写真：高野大



音楽学部「おきげいおんがくコンサート」

写真：高野大



櫛田 圭右

音楽学部音楽学科器楽専攻 2010年卒業 17期生
音楽教室ココハ代表・チェロ講師

早いもので沖縄県立芸術大学を卒業して14年が経ちました。しかし、私にとって今でも沖芸で過ごした4年間はきらきらとしたとても大切な時代です。

私は沖芸入学以前、早稲田大学及び同大学院にて情報通信を専攻し、その後、大手企業にて携帯電話の設計に従事していました。ただ、実力主義の厳しい職場で、実力がなかなか身につかず成果を出せない私の居場所は次第になくなり、限界がきて退職しました。そんな中で心に唯一に残っていた光が「またチェロを弾きたい」でした。私のような中学の部活で楽器を始めた者にとって、音大に行くことは非現実的な夢物語であり、会社員時代は多忙のためほとんど弾いておらず、さらにソルフェージュもピアノもやったことがない状況での無謀な挑戦でしたが、おかげさまで10か月の受験期間を経て何とか入学することができました。

沖芸では学部1年から教授の直接指導を毎週受けられたことはとても貴重な経験でしたし、また、それまで「道楽」と陰口を叩かれることもあった音楽の学びが単位になることは嬉しかったで

す。さらに専攻分野である西洋音楽だけではなく、空手、三線など沖縄文化を体験できたのも大きな経験でした。

沖芸卒業後は地元・愛知県で音楽教室を立ち上げ、現在は私自身が生徒30余名を指導し、教室全体では50名ほどの生徒が所属しています。

音楽を志す者ならば一度は「音楽では食べていけない」と周囲から言われ、その道に進むのを引き留められてきたでしょう。それを振り切って入学してきた後輩たちに対して、私は「けっこう楽しく食べていいよ」と伝えられるように、そして、将来の展望が見えないとても「櫛田さんなら何とかしてくれる」と思ってもらえるように教室をさらに発展させ、背中を見せて走り続けたいと思います。





演目

琉球古典音楽斎唱「稻まづん節(安富祖流)」「こてい節(野村流)」

琉球舞踊「諸屯」

琉球舞踊「金細工」

生田流箏曲「花・鳥・風・月」作曲：吉崎克彦

琉球古典音楽独唱「子持節」「赤田風節」「述懐節(二揚)」「仲風節(二揚)」

琉球舞踊「南洋浜千鳥」作舞：伊良波尹吉

新作組踊「インヌミ森屋敷」作：阿嘉修



第34回洋楽定期公演 ~ピアノコース学生による2台ピアノ演奏~

2023年12月2日(土)

沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール



プログラム

C. サン=サーンス：《動物の謝肉祭》(2台4手版 ナレーション付き)

S. ラフマニノフ：組曲 第1番《幻想的絵画》作品5より

S. ラフマニノフ：組曲 第2番 作品17

出演：沖縄県立芸術大学音楽表現専攻ピアノコース、小杉裕一(本学教員)

附属図書・芸術資料館 令和5年度 企画展

近現代の巨匠たち—沖芸大のコレクションから



沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館
2023年10月21日～11月3日



沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館は、1994年の開館以来、時代やジャンルを問わず、学びの場に役立つさまざまな分野の資料や芸術作品を収集し、毎年その収蔵品を活用して多彩な展覧会を開催してきました。

本展では、当館のコレクションより19世紀から21世紀を代表する欧米を中心とする芸術家の作品を展観しました。アルフォンス・ミュシャ (1860-1939)、ジョルジュ・ルオー (1871-1958)、サム・フランシス (1923-1994)、フランク・ステラ (1936-)、クリスト (1935-2020) らの版画作品に加え、アントニ・ガウディ (1852-

1926)、フランク・ロイド・ライト (1867-1959)、ル・コルビュジエ (1887-1965) ら著名な建築家のデザイナーズチェアなど近現代の巨匠たちの作品に焦点をあて、近現代美術の一端を紹介しました。また、1980年代から90年代にかけて草間彌生 (1929-) や横尾忠則 (1936-)、李禹煥 (リ・ウファン、1936-) ら世界的にも評価の高い作家たちが手がけた日仏会館 (在東京) 講演会ポスターも公開しました。国内外の魅力あふれる近現代芸術作品の数々に多くの関心が寄せられ、14日間 (10月21日～11月3日) の会期で1249人の来場者を迎えることができました。

芸術文化研究所



二代目宮城能造先生による実践教育プログラム開発事業の授業風景

芸術文化研究所では移動大学や文化・公開講座の開講、しまくとうば実践教育プログラムの開発事業を行なっています。令和5年度は、移動大学in久志、文化講座「琉球・沖縄諸芸術の研究100年」(オンデマンド)、公開講座「紅花染めを学ぶ」を開講しました。

移動大学では名護市久志に赴き、織遊び教室や三線教室などの教室を開講するとともに地域文化芸能交流会を開催しました。

文化講座「琉球・沖縄諸芸術の研究100年」では沖縄芸術諸分野の近現代の研究史について

14名の各専門分野の講師による講座を公開しました。本講座は令和5年4月12日から令和5年9月30日まで動画が公開され、県内外受講者から延べ4100回以上の視聴がありました。

公開講座「紅花染めを学ぶ」は経験者を対象に令和5年11月17日に開催されました。

しまくとうば実践教育プログラムの開発事業では、琉球芸能専攻でしまくとうばによる実践教育を行なっています。今年度は二代目宮城能造先生方による授業を開講しました。



移動大学「織遊び教室」



「公開講座「紅花染めを学ぶ」」

【絵画】

- 田畠奈那子（修士1年） · 第8回 石本正日本画大賞展 大賞
 · 第23回 佐藤太晴賞公募美術展 日本画部入選
- 森谷美里（学部4年） · 第35回 卒業・修了作品展 デパートリウボウ賞
- 大城佳乃子（学部4年） · 令和5年度 卒制買上賞
- 杉山遥香（学部4年） · 第35回 卒業・修了作品展 北中城村文化協会賞
- 曹婷婷（研究生） · 美術新人賞デビュー2024 奨励賞
- 菅日凪子（学部4年） · 令和5年度 卒制買上賞
- 喜納祥子（修士1年） · 第22回 奔美を描く美術展 入選
 · 神山財団芸術支援プログラム 奨学第10期生 選出
- 屋良美稀乃（学部1年） · 第75回 沖展 入選
- 黒田唯人（学部2年） · 第75回 沖展 入選
- 平良咲乃（学部3年） · 第75回 沖展 入選
- 喜納祥子（修士1年） · 第75回 沖展 入選
- 津野さくら（修士2年） · 第75回 沖展 入選

【デザイン】

- 藤原頼真（学部4年） · A' Design Award & Competition Silver Young Design Pioneer Awards
 · A' Design Award Winner for Furniture Design Category in 2022
- 西銘紗希（学部4年） · 日本建築学会九州支部支部長賞
- 大田衣輝（学部4年） · 第75回 沖展 陶芸部門 入選
- 川邊さくら（学部4年） · 令和5年度 卒業作品買上
- 幸地七海（学部3年） · 第75回 沖展 木工芸部門 e-no新人賞
- 知花美紗（学部1年） · 豆菓子パッケージデザインコンテスト コメダ賞
- 根間笑花（修士1年） · NHKチチチ・アニメ「KOMADORIチャレンジ」 最優秀作品
 · 第19回吉祥寺国際アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞
- 稻嶺優子（修士1年） · A' Design Award & Competition A' Design Award Winner for Furniture Design Category in 2022
- 喜友名美沙希（修士2年） · A' Design Award & Competition Bronze A' Design Award Winner for Furniture Design Category in 2022
 A' Design Award Winner for Lighting Products and Fixtures Design Category in 2022
 · LIT Design Awards Winners in Designer/Custom Lighting
- 田東沢（博士3年） · 第54回 毎日・DAS学生デザイン賞（プロダクト部門）入選
 · 第52回 沖縄県芸術文化祭公募展 入選

【工芸】

- <織分野>
 知念紗羅（学部4年） · 第77回 新匠工芸会展（染織部門）入選
- <染分野>
- 根路銘まり（博士2年） · 第77回 新匠工芸会展 努力賞
- 上地 菜々美（修士2年） · 第77回 新匠工芸会展（染織部門）入選
- 須郷 望友（修士2年） · 第74回 群馬県美術展覧会 入選
- 大久保 樹（修士1年） · 第27回 全国染織作品展 入選

【彫刻】

- 山崎壱大（修士2年） · 第35回 卒業・修了作品展 北中城村長賞
 戴素貞（博士） · 「第六回麗宝国際彫刻ビエンナーレ展」（台湾麗宝基金会主催） 国際公募 金賞

【芸術学】

- 井上みづき（修士2年） · 第35回 卒業・修了作品展 沖縄県立博物館・美術館長賞
 長嶺勝磨（博士） · 第15回諸橋徹次博士記念漢詩大会 生誕記念の部 「最優秀賞 生誕記念賞」
 学生の部 「優秀賞」
 いしかわ百万石国民文化祭2023 全国漢詩の祭典 「入選」

【西銘順治賞】

伊良波藍（絵画専攻） 中原菜海（彫刻専攻） 宮城優真（芸術学専攻） 川邊さくら（デザイン専攻） 嘉手納凜香（工芸専攻）

【山本正男賞】

高野大（生活造形専攻） 佐藤ゆり（環境造形専攻） 井上みづき（比較芸術学専攻） 長嶺勝磨（芸術文化学専攻） 鈴木まこと（芸術文化学専攻）

【音楽表現専攻・演奏芸術専攻】

<声楽コース>

- 岩元珠音（学部4年）・第3回バーゼル国際声楽コンクール 大学生・院生の部 第2位（1位なし）
 近藤敬人（3年）・第56回新報音楽コンクール 声楽部門 一般の部 第2位
 福元星梨奈（4年）・第56回新報音楽コンクール 声楽部門 一般の部 第3位
 <ピアノコース>
 松本亜依（1年）・第56回新報音楽コンクール ピアノ部門 一般の部 第1位 最優秀賞
 松本陽佳里（3年）・第56回新報音楽コンクール ピアノ部門 一般の部 第2位
 ・第26回長江杯国際音楽コンクールピアノ部門大学の部 第3位
 ・第33回日本クラシック音楽コンクール大学女子の部 第4位
 玉木日菜（4年）・第18回栃木県ピアノコンクール コンチェルト部門上級 第5位
 西村安奈（2年）・第23回和幸ピアノコンクールにて、「Gアカデミー部門」 最優秀賞 埼玉スバル賞
 ・第13回日本バッハコンクール全国大会 大学・大学院部門 銅賞
 高江洲愛奏（3年）・第33回日本クラシック音楽コンクール ピアノ部門大学の部 全国大会入選
 新城一大（3年）・第8回ペートーヴェン国際ピアノコンクールアジア本選会E部門 第2位、リリス賞、テンポプリモ賞

第40回JPTAピアノ教育連盟オーディション沖縄地区 [D部門]

地区大会優秀賞（全国大会推薦）：林 陽菜（4年）西村 安奈（2年）地区大会優良賞：仲宗根 和志（3年）
 地区大会奨励賞：崎濱 梓（4年）高江洲 愛奏（3年）原國 涼菜（1年）仲座 綾音（1年）

<弦楽コース>

- 片岡 志月（2年）・第56回新報音楽コンクール 弦楽部門（ヴァイオリン）一般の部 第3位

<管打楽コース>

- 仲村爽（2年）・第56回新報音楽コンクール 管打部門 一般の部 第1位

<声楽専修>

- 宮良真子（院2年）・第56回新報音楽コンクール 声楽部門 一般の部 第1位

<ピアノ専修>

- 吉田七星（院2年）・第39回JPTAピアノ教育連盟オーディション全国大会[D部門] 最優秀賞（第1位）萩原和子賞
 吉本美優（院2年）・第40回JPTAピアノ教育連盟オーディション沖縄地区 [E部門] 全国大会推薦
 勝永直（院1年）・奥浜名湖国際ピアノフェスティバル本選Bカテゴリー 第3位並びに聴衆賞

<管弦打楽専修>

- 島田優香（院2年）・第25回〈万里の長城杯〉国際音楽コンクール 弦楽器部門 大学の部 第3位
 ・第56回 新報音楽コンクール 弦楽部門（ヴァイオリン）一般の部 最優秀賞（第1位）、数和子賞受賞
 城間一瑳（院2年）・バーゼル国際音楽新人オーディション2023（クラリネット）未来賞
 花城朱里（院1年）・バーゼル国際音楽新人オーディション2023（ホルン）奨励賞

【琉球芸能専攻・舞台芸術専攻】

<琉球古典音楽コース>

- 名嘉真蒼織（4年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 最高賞（三線）
 宮里ひなた（4年）・2023年度沖縄タイムス伝統芸能選考会 新人賞（胡弓）
 小笠原千裕（3年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 優秀賞（三線）
 親鈴鉄（3年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 最高賞（三線）
 高松大智（3年）・琉球古典音楽湛水流保存会第38普及審査 優秀賞（三線）
 知花栄汰（3年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 新人賞（笛）
 山城美帆（3年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 優秀賞（三線・笛）、新人賞（琉球舞踊）
 ・八重山毎日新聞社第47回八重山古典民謡コンクール 最優秀賞（三線）
 石川未侑（2年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 最高賞（太鼓）
 池原輝飛（2年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 優秀賞（三線）
 玉城正智（1年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 新人賞（笛）
 友利寿音（1年）・2023年度沖縄タイムス伝統芸能選考会 最高賞（三線）、優秀賞（筝曲）
 <琉球舞踊組踊コース>

- 照屋流輝（3年）・琉球新報社第57回琉球古典芸能コンクール 優秀賞（琉球舞踊）

- 宮里夏佳（2年）・2023年度沖縄タイムス伝統芸能選考会 新人賞（太鼓）

【西銘順治賞】

玉城菜摘（音楽表現専攻） 野口理央（音楽文化専攻） 名嘉真蒼織（琉球芸能専攻） 田島吟（琉球芸能専攻）

【山本正男賞】

石嶺李安（舞台芸術専攻） 島田優香（演奏芸術専攻） 宮城勇佑（演奏芸術専攻） 金城亞美（音楽学専攻）

開鐘 (KE-JOU)

開鐘とは、明け六つの開静鐘の優雅な音にたとえられた三線の尊称です。
沖縄県立芸術大学も開鐘のように遙か彼方まで鳴り響き、世界に向かって飛躍する拠点となる事を願い、広報誌を「開鐘」と名付けました。

沖縄県立芸術大学 広報委員会

2024年5月15日発行

